

論 文

## 女子大学生におけるサブカルチャーに関する社会心理学的研究(I)

— 恋愛観, 被服志向性, 女性ファッション誌接触傾向の関連 —

諸井 克英 花高 亜紀 尾鳥 智美

生活科学部・人間生活学科

生活科学部・人間生活学科

現代社会学部・社会システム学科

2008年度卒業

2007年度卒業

## I. 問題

2010年4月の大学進学率は50.9%に達し、過去最高となった(文部科学省, 2010)。女子だけでも45.2%となり(男子56.4%), わが国の高等教育の進展は頂点を極めている。ここでは、この推移を、女性にとっての高等教育の充実という観点よりも、女子大学生が一般女性とは区別されるサブカルチャーを形成する潜在的数値基盤として把握しよう。つまり、当該社会に同一地位・属性を占める者の割合が大きくなったのである。

伊奈(1999)によれば、サブカルチャーとは、「メインとしての政治・経済・社会のシステムからある程度独立し、自律性を持つものの、それに依存、従属、ないしは寄生する文化」を指す。仲川(2002)は、'70年代後半に「ニュートラ(ニュー・トラディショナル)」や「ハマトラ(ヨコハマ・トラディショナル)」を女子大学生イメージの代名詞とさせたエンジンとして「JJ」('75年創刊)の役割を解析している。つまり、「お嬢様という記号」に象徴される「洗練された都会の女の子」という意識が核となりキャンパス・ファッション化していった。さらに、仲川によれば、この女子大学生サブカルチャーは、「ブランド品至上主義とパフォーマンス」を基底とした'80年代後半の「セクシー」ファッション、芸能人の模倣に動機づけられた大胆さを基本とした'90年代の「ロマンティック」ファッションへと変遷する。

つまり、「作品としての自己表現、その社会的集積、結果として確認される行動様式」(伊奈, 1999)が大学キャンパスを中心として抽出されるのである。女子大学生は、

「親文化と支配者のイデオロギーとの間のどこかに存在する、適切な空間、すなわち、代わりの自己を発見し表現できる空間」(Hebdige, 1979)を獲得したといえる。

本研究の目的は、女子大学生が形成しているサブカルチャーの一端を明らかにすることである。ファッション、化粧行動、さらに恋愛行動などのサブカルチャーの行動様式的な側面と、恋愛意識や性役割観などの内面に系統的に醸成された側面に関して、サブカルチャー形成に対する雑誌メディアのもつ機能と関連づけた先行研究を概観しよう。

'60年代の「ミセス」のファッション記事を分析した田中(2008)は、「イメージの上で心理的抵抗を覚えるようなスタイル」である「ミニ・スカート」に関して、モデル呈示、裁縫技術や、巧みな説得文による唱導を明らかにした。これは、雑誌メディアが流行の取り入れの橋渡し機能をもつことを示している。

熊谷(2003)は、女子学生(四大, 短大, 専門学校)を対象として、雑誌メディアへの接触がファッションへの態度と関連することを実証した。クラスター分析によって雑誌購読行動が次の2つに分類された。①コレクション情報の呈示による自分自身のファッションへの取り入れアドバイスを中心とし、オリジナル・ファッション創造に寄与するCREATIVE系(SPUR, HF, 流行通信, spring, CUTiE, Zipper), ②ファッションに加え化粧品やスキンケアなどの女性に関心をもっている情報を中心としたCONTEMPORARY系(non・no, with, MORE, JJ, CanCam)。これらの2つのクラスターと被服志向性との関連を見ると、CREATIVE系雑誌の購読が流行の積極的取り入れに、CONTEMPORARY系雑誌の購読が周囲への同調と結びついていた。

女子高校生を対象に質問紙調査と面接調査を実施した佐藤(佐久間)(2002)によれば、ギャル系雑誌(「egg」, 「Pop teen」, 「Cawaii!」)の購読者は、「女子高校生であること」を肯定的に捉え、「援助交際」を普遍的現象と見なす傾向があった。この結果は、雑誌メディアと対異性行

動との関連を示唆する。また、石崎(2004)は、'90年代半ばに「新・専業主婦志向」(「男は仕事と家事、女は家事と趣味(的仕事)」(厚生省, 1998))の出現とともに創刊された女性雑誌「VERY」がこの志向を体現する様を論じている。これも、雑誌メディアへの接触と性役割に関する内的態度の形成との相乗作用を示唆する。

磯井・早川(2002)は、同一出版社から発行されている「non・no」と「Lee」を対象として'80年代から'90年代の「身体広告量」や「モデル登場回数」などを検討した。その結果、若年層をターゲットとする「non・no」のほうが身体的魅力希求に対応した誌面構成であることが確認された。これは、どのような層を対象とするかにより紙面構成が変わることを示している。

さらに、女性雑誌の誌面を分析した諸橋(1993)によれば、女性雑誌は「恋愛歳時記」の様相を見せている。雑誌メディアが四季に応じて異性が常時必要だと言うことを誌面で唱導しているのである。つまり、恋愛態度や行動と女性雑誌の紙面構成との間に相関が存在する。

以上の概観から、女性のサブカルチャーの形成と保持には、雑誌メディアが重要な役割をもつことが伺える。そこで、本研究では、サブカルチャーの外面的側面である着装に対する内的傾性を指す被服志向性、男と女に特有な関係性に関わる内的傾性である恋愛観に焦点をあて、これらが女性ファッション誌との接触傾向とどのような関連をもつかを探索し、女子大学生のサブカルチャーの構造を明らかにすることを目的とする。

神山(1996)によれば、人間にとって着装には次の3つの心理-社会的機能がある。①「自己の確認・強化・変容」機能、②「情報伝達」機能、③「社会的相互作用の促進・抑制」。本研究での被服志向性とは、「被服を対象として形成された態度」(諸井・鈴木・染谷・平田, 2001)であり、着装の3機能を支える傾性といえる。先に概観した研究を踏まえると、女子大学生の被服志向性は、その時代に流通する雑誌メディアに展開される唱導内容と相互影響の関係にあると考えられる。

女性向けの雑誌が展開する「恋愛歳時記」(諸橋, 1993)の様相が証明するように、女子大学生が育む「恋愛」概念の様態も、サブカルチャーの観点から重要である。ここでは、Lee(1977)が提起した恋愛スタイルの概念に焦点をあてる。

Lee(1977)は、恋愛に関する種々の概念化の個人的表出や社会的表出における個人差に注目し、小説資料や青年を対象とした面接に基づき、「色相環」に模して次の6つ

のスタイルを抽出した。①マニア(独占欲が強い。嫉妬、強迫的な執着、悲哀などの激しい感情を伴う)、②エロス(恋愛を至上のものと考え、ロマンティックな考えや行動をとる。相手の外見を重視し、一目惚れを起こす)、③アガペ(相手の利益だけを考え、相手のための自己犠牲を厭わない)、④ストルゲ(穏やかな、友情的な恋愛。長期にわたり愛を育む)、⑤プラグマ(恋愛を地位上昇の手段として考える。社会的地位の釣り合いなどの基準をたてて、相手を選択する)、⑥ルダス(恋愛をゲームとして捉え、楽しむことを重要と考える。相手に執着はなく、距離をとる。複数の相手と恋愛できる)。Leeが仮定したこれらの恋愛スタイルそれぞれが、被服志向性や、女性ファッション誌への接触傾向とどのような関連をもつかを明らかにすることは、諸橋(1993)による「恋愛歳時記」の指摘を踏まえると重要といえよう。

本研究では、女性ファッション誌接触傾向、被服志向性、および恋愛観に焦点を絞り、女子大学生のサブカルチャーの基本的構造を実証的に解明するために、質問紙調査を行った。

## II. 方法

### 調査の対象および調査の実施

同志社女子大学での社会心理学関係の講義を利用して、『日常生活行動』調査の名目で2年度に渡り質問紙調査を実施した(2007年7月2日・6日; 2008年4月28日・5月8日; 回答者は重複していない)。回答にあたっては匿名性を保証し、質問紙実施後に調査目的と研究上の意義を簡潔に説明した。

青年期の範囲を逸脱している者(25歳以上)を除き、以下に述べる3尺度に完全回答した、女子学生365名(2007年164名, 2008年201名)を分析対象とした(2年次1名, 3年次347名, 4年次17名)。回答者の平均年齢は20.28歳( $SD = .542$ , 20~23歳)であった。

### 質問紙の構成

質問紙は、回答者の基本属性に関する設問に加え、(1)女性ファッション誌接触傾向尺度、(2)被服志向性尺度、(3)恋愛観尺度から構成されている。

#### (1) 女性ファッション誌接触傾向尺度

女子大学生が日ごろ読みそうな女性ファッション誌を書店店頭やインターネットで探索し、調査時点で公開されている37誌を選択した(Table 1-c, Appendix 1-c 参照)。

この6カ月の間にそれぞれの雑誌を回答者がどのくらい

読んだかを尋ねた。その際、買ったときと同じくらい読んでいるときには「立ち読み」も含めるように教示した。各雑誌について、4点尺度で回答させた(「4.必ず読んだ」, 「3.たいてい読んだ」, 「2.ときどきしか読まなかった」, 「1.まったく読まなかった」)。

## (2) 被服志向性尺度

本研究では、「被服を対象として形成された態度」である被服志向性(諸井ら, 2001)を測定した。諸井ら(2001)は、先行研究で用いられた尺度項目を整理し、46項目から成る被服志向性尺度を新たに作成した。男女大学生に実施し、ほぼ同様の主成分を抽出した(「流行志向性」, 「保守的志向性」, 「実用性」, 「慎み深さ」)。本研究ではこの尺度を用いた(Table 1-a, Appendix 1-a)。

回答者は、46項目それぞれについて、衣服や衣服を着ることに對する回答者自身の態度や気持ちにあてはまる程度を4点尺度で評定した(「4.かなりあてはまる」, 「3.どちらかといえばあてはまる」, 「2.どちらかといえばあてはまらない」, 「1.ほとんどあてはまらない」)。

## (3) 恋愛観尺度

回答者の恋愛観を測定するために、諸井(2004)による恋愛観尺度を用いた。諸井(2002)は、松井ら(1990)によるLETS-2(Lee's Love Type Scale 2nd. version)に基づきこの尺度を作成したが、もともと想定されている6成分のうちエロス成分が現れなかった。そこで、次研究では(諸井, 2004), Hendrick & Hendrick(1986)の原尺度も参照しながら、67項目から成る恋愛観尺度を作成した。しかしながら、この研究でもエロス成分を得ることができなかった。ここでは、諸井(2004)による尺度を使用した(Table 1-b, Appendix 1-b)。

異性との現実のつきあいにとられる必要はないと教示したうえで、異性関係に対する回答者自身の考えや気持ちを答えるように指示した。67項目のそれぞれに被服志向性尺度と同様の4点尺度で評定させた。

以上の3尺度では、評定順の効果を相殺するために、評定用紙をそれぞれ頁単位(女性ファッション誌接触傾向尺度4頁, 被服志向性尺度5頁, 恋愛観尺度7頁)でランダムに並び替えた。

## III. 結果

### 尺度の検討

#### (1) 被服志向性尺度および恋愛観尺度

被服志向性尺度と恋愛観尺度については、以下の手順で

主成分分析を行った。すべての尺度項目について、平均値の偏り( $1.5 < m < 3.5$ )と標準偏差値( $SD > .600$ )のチェックを行い、不適切な項目を除去した。その上で、主成分構造を同定するために、主成分分析(プロマックス回転( $k = 3$ ))を行った。主成分固有値 $\geq 1.000$ を満たす解をすべて求め、プロマックス回転後の負荷量 $1.400$ を基準に妥当な主成分解を同定した。①特定主成分の負荷量が十分に大きく( $\geq 1.400$ )、②他主成分への負荷が小さい( $< 1.400$ )という基準に一致しない項目を除き再度分析を行い、明確な負荷量パターンが得られるまで、このことを反復した。最終的には、各分析で回帰法によって主成分得点を算出し、これらの得点を後の分析で用いた。

#### ① 被服志向性尺度

項目水準で見ると、cl\_b\_3が「平均値 $> 3.5$ ,  $SD < .600$ 」であり、cl\_b\_6が「 $\approx 3.5$ 」, cl\_e\_8が「 $\approx 1.5$ 」であった。これら3項目を除く43項目を対象に主成分分析を実施した。2~10主成分解が可能であったが、抽出主成分が解釈可能で同一主成分への負荷が比較的明確であった5主成分解を採用した。分析の反復によって得られた明確な主成分パターンをTable 1-aに表した(残余項目Appendix 1-a)。

第I主成分から第IV主成分までは前研究(諸井ら, 2001)とほぼ同様の結果であったので、それぞれ、「流行志向性」, 「保守的志向性」, 「実用性」, 「慎み深さ」と命名した。第V主成分は、自ら流行をつくり出す傾向を表す項目で負荷が高いので、「先端性」とした。

#### ② 恋愛観尺度

項目水準の検討により不適であった1項目( $\approx 3.5$ ; lv\_c\_8)を除く66項目を対象に主成分分析を行い、2~16主成分解を求めた。6主成分解が仮定通り(Hendrick & Hendrick, 1986; 松井ら, 1990)の構造をほぼ表していたので、この解について、明確な主成分パターンが得られるまで分析を繰り返した。最終的な結果をTable 1-bに示す(残余項目Appendix 1-b)。それぞれの主成分は、仮定通り、マニア、アガペ、プラグマ、ストルゲ、エロス、およびルダスと名づけた。

#### (2) 女性ファッション誌接触傾向尺度

この尺度では、予備的に項目水準の検討をすると、大半の項目が平均値が低かった(つまり、回答者によって購読雑誌がかなり分散している)、以下のようにした。標準偏差値( $SD > .400$ )の基準を設定しチェックを行った。その結果、9項目が不適切であった( $SD < .400$ : a\_a\_9, fa\_b\_1, fa\_b\_2, fa\_b\_10, fa\_b\_11, fa\_c\_1, fa\_c\_4, fa\_c\_5,

Table 1-a 被服志向性尺度に関する主成分分析（プロマックス回転  $k = 3$ ）の結果: 回転後の負荷量

	I	II	III	IV	V
〔流行志向性〕					
cl_d_2 衣服にお金をかけるほうである。	.814	-.081	.066	.067	-.124
cl_a_3 着飾るのが好きなほうである。	.763	-.038	-.004	-.105	-.103
cl_e_7 たえず新しい着こなしを考えている。	.718	-.099	.000	.139	.035
cl_a_2 衣服の流行に遅れないようにしている。	.656	.331	-.152	.081	.037
cl_d_5 新しい流行の服を、周囲の人よりも先に着たいほうである。	.655	.045	-.140	.048	.190
cl_b_8 服装の形や色を組み合わせ、変化をつけて着るのを楽しんでいる。	.651	-.092	.121	.042	-.075
cl_a_7 少々値段が高くて、ファッションブルな服を買う。	.647	-.112	.147	.014	-.088
cl_c_8 新しいスタイルの服を仲間よりも先に着たい。	.628	-.122	-.152	.171	.251
cl_d_8 新聞や雑誌のファッションに関する記事を読む。	.625	.167	.152	.063	-.007
cl_b_2 シーズンに先立って、着る服をあれこれ考えることはない。	-.614	-.100	-.017	.089	.186
cl_d_7 若者が集まるところに出かけて、新しいファッションを探すことはあまりない。	-.549	-.148	.051	.087	-.013
cl_d_1 服の色に小物や靴の色を合わせるようにしている。	.544	.022	.094	-.034	-.117
cl_c_3 テレビ番組や広告に登場する人物が身につけている服装に興味がある。	.539	.281	.194	-.136	.098
cl_a_5 仲間から褒められたり、うらやましがられる服装をしたい。	.489	.170	.025	-.097	.314
cl_c_9 いつも目新しい刺激的な服を探している。	.426	-.316	-.084	-.023	.333
〔保守的志向性〕					
cl_a_6 他の人と同じようなタイプの服を選ぶほうである。	.049	.741	-.075	-.076	.314
cl_b_9 周囲の人たちと同じような服装をしていると、何となく気持ちが落ち着く。	.113	.717	.022	.055	.292
cl_c_1 自分の服装が流行遅れになっていないか気になる。	.306	.644	.014	-.100	.186
cl_a_1 かなり多くの人が着ないと、新しいスタイルの服を買うことはない。	-.077	.599	-.029	.142	.324
cl_c_4 自分の服装を非難されても、ほとんど気にならない。	-.274	-.576	.200	.100	.083
cl_b_7 服を買うとき、一般的であまり抵抗のなそうなものを選ぶ。	-.167	.568	.259	.099	.130
cl_b_1 斬新なデザインの服を買うことには、ためらいを感じる。	-.131	.494	.128	.266	-.099
cl_a_8 服を買うときには、個性的な店で選ぶ。	.343	-.450	.137	.151	.251
cl_e_2 人目につくような服はほとんど着ない。	-.324	.435	.118	.179	-.078
〔実用性〕					
cl_a_9 服を買うとき、品質・取り扱い表示などをみて慎重に選ぶ。	.208	-.064	.695	.017	-.120
cl_b_5 外観よりも着心地を重視する。	-.245	-.127	.693	-.087	.209
cl_c_5 色やデザインの気に入った服でも、肌ざわりの悪い素材の衣服は買わない。	.159	.028	.679	-.049	-.109
cl_a_4 衣服は、流行よりも実用性（手入れのしやすさ、丈夫さ、しわになりにくさなど）を重視する。	-.251	-.077	.670	-.016	.215
cl_d_9 衣服を選ぶときには、流行中のもでも着やすさを重視する。	.207	.145	.614	.031	.081
cl_e_4 気に入った衣服が見つければ、取り扱い表示は気にしない。	-.168	-.011	-.503	.051	.272
〔慎み深さ〕					
cl_c_6 大胆で体をあらわにした服装をする人とあまりつきあいたくない。	.062	.038	.107	.749	-.074
cl_b_4 超ミニのスカートは品がないと思う。	.104	.015	.016	.713	-.124
cl_d_6 胸元が広くあいている衣服を着ている人を見ると、自分が決まり悪く感じる。	.059	-.034	-.149	.673	.052
cl_e_6 シースルー（透けて見える素材）のブラウスやシャツは体を見せすぎだと思う。	-.208	.061	-.094	.552	.222
〔先端性〕					
cl_b_10 自分に似合いそうにない服でも多くの仲間が着ているタイプの服であれば、それを着用する。	-.189	.331	-.012	-.037	.657
cl_e_5 私の服装を真似する人がいると、うれしい。	.143	.226	-.042	-.159	.448
cl_e_3 服を選ぶときには、以前の自分のスタイルにこだわる。	-.021	.194	.092	.133	.439
cl_d_10 仲間の中では、目立つ衣服を着るのが好きである。	.373	-.336	.021	-.040	.412
〔主成分間相関〕					
	I	-.156	-.261	-.248	.315
	II		.083	.157	-.175
	III			.271	-.234
	IV				-.072

N = 365

初期固有値 &gt; 1.460; 初期説明率46.81%

fa\_d\_4)。

残りの28項目を対象に主成分分析（プロマックス回転  $k = 3$ ）を行った。2～6主成分解が算出できたが、負荷量パターンが解釈可能であった5主成分解について、他の2尺度と同じ手順で明確な主成分パターンが得られるまで分析を反復した。最終的な結果をTable 1-cに示す（残余項目 Appendix 1-c）。

第I主成分に負荷が高い項目を見ると、ベーシック・カジュアルやモード・カジュアルという概念をもつ雑誌に該当し、10代後半から20代前半の層の女子大学生を対象としている。「spring」は、対象年齢が25歳前後であり若干高めである。これらのことから、第I主成分は、「カジュアル系」と命名した。

第II主成分で負荷が高い雑誌は、女子高校生や20歳まで

Table 1-b 恋愛観尺度に関する主成分分析(プロマックス回転  $k = 3$ )の結果: 回転後の負荷量

	I	II	III	IV	V	VI
<b>[マニア]</b>						
lv_a_1 恋人が私を気にかけてくれないと、私は気がめいってしまう。	.016	-.060	<b>.681</b>	-.117	.151	.037
lv_a_10 恋人は私だけのものであって欲しい。	.012	-.111	<b>.613</b>	-.126	.109	.139
lv_b_8 恋人のことを思うと、強い感情がこみあげてどうしようもなくなる。	.139	.336	<b>.534</b>	.071	.075	-.101
lv_c_2 恋人には、いつも私のことだけを考えていて欲しい。	-.036	-.097	<b>.744</b>	-.071	.103	.033
lv_c_10 恋人が私以外の異性と楽しそうにしていると、気になって仕方がない。	-.019	.018	<b>.668</b>	-.048	-.012	-.045
lv_d_3 私は、いつも恋人のことを考えている。	.090	.256	<b>.565</b>	-.120	.036	-.052
lv_e_4 恋人からの愛情が、ほんのわずかで欠けていると感じると、悩み苦しむ。	.036	.069	<b>.514</b>	-.083	.008	.189
lv_f_8 もし恋人が私を無視したら、恋人の気を惹こうと、私はわざと馬鹿なことをする。	.007	.213	<b>.529</b>	.296	-.022	-.068
lv_g_9 恋人と私の間にうまくいかないことがあるときには、私は腹が立つ。	-.014	-.218	<b>.583</b>	.186	-.078	.026
<b>[アガベ]</b>						
lv_a_6 恋人の望みをかなえるためなら、私自身の望みはいつでも喜んで犠牲にできる。	.015	<b>.751</b>	.078	.078	-.126	-.097
lv_a_8 恋人が苦しむくらいなら、私自身が苦しんだ方がましである。	-.061	<b>.745</b>	-.102	.006	-.006	.096
lv_b_4 恋人のためなら、私は自分ができなかったことを克服しようとする。	.156	<b>.612</b>	-.071	-.010	-.029	.270
lv_c_5 私自身の幸福よりも、恋人の幸福が優先しないと、私は幸福になれない。	-.017	<b>.704</b>	-.017	.076	-.057	.070
lv_c_7 恋人が苦しんでいるときには、私は全力で恋人を助けようとする。	.007	<b>.519</b>	.071	-.034	.093	.233
lv_c_9 恋人のためなら、私は死ぬことさえも恐れない。	.076	<b>.511</b>	.088	-.122	-.111	-.087
lv_d_4 恋人のためなら、私はどんなことでも我慢できる。	.010	<b>.679</b>	.136	-.052	-.052	-.058
lv_f_1 たとえ私が愛する人から全く愛されなくても、私はその人を愛していたい。	-.049	<b>.542</b>	-.074	.258	.004	-.134
lv_f_3 恋人と一緒にいたら、私はどんなに貧乏な暮らしでも平気である。	-.253	<b>.514</b>	.021	-.078	.128	-.119
lv_g_4 私がどんなにつらいときでも、恋人に対して、いつでも優しくしてあげたい。	.014	<b>.540</b>	-.258	-.075	.080	.229
<b>[プラグマ]</b>						
lv_b_1 私は、相手と私の間にどのような子どもができるかを想像してから、相手に夢中になるようにする。	<b>.510</b>	.044	.167	.039	.056	-.101
lv_b_3 恋人を選ぶときには、私はその人の将来性を考える。	<b>.776</b>	-.039	-.100	-.030	-.019	.090
lv_b_7 恋人を選ぶときには、私はその人の学歴や育ち(家柄)でのつり合いを考える。	<b>.726</b>	-.113	.008	.011	-.023	.032
lv_c_4 恋人を選ぶときには、私はその人が私の経歴にどう影響するかも考える。	<b>.712</b>	.000	.113	.017	-.136	-.002
lv_d_2 異性と深く関わる前には、私はその人が将来どんな人になるだろうかとよく考える。	<b>.724</b>	.076	.016	-.005	-.003	.005
lv_e_9 恋人を選ぶときには、私はその人が私の家族にどう受けとられるかを一番に考える。	<b>.505</b>	.182	.059	-.018	.187	-.181
lv_f_4 恋人を選ぶ前に、私は自分の人生を慎重に計画しようとする。	<b>.507</b>	.012	-.138	.105	-.009	.103
lv_f_6 恋人を選ぶときには、私はその人とのつきあいが、私の格(レベル)を下げないかと考える。	<b>.563</b>	-.054	.056	.204	-.034	.115
lv_g_1 恋人を選ぶのに重要なことは、その人がよい親になるかどうかである。	<b>.597</b>	.204	-.040	-.122	.176	-.086
lv_g_6 恋人を選ぶときには、私はその人の経済力を考える。	<b>.773</b>	-.158	.002	-.005	-.030	.041
<b>[ストルゲ]</b>						
lv_b_6 異性との友情は、時間をかけて次第に恋愛へと変わっていくものである。	-.035	-.043	.104	.028	<b>.623</b>	.064
lv_d_5 長い友人関係を経て、恋人になる方がよい。	-.036	.061	-.052	.064	<b>.762</b>	.027
lv_d_8 最良の愛は、長い友情の中から育つ。	.005	-.024	.022	.073	<b>.813</b>	-.018
lv_f_2 異性との友人関係は、恋愛関係へと発展することがよくある。	-.021	-.129	.299	.059	<b>.559</b>	.080
lv_g_7 私が最も満足できる恋愛関係は、よい友情から生まれるものである。	.076	-.043	.001	-.017	<b>.807</b>	-.039
<b>[エロス]</b>						
lv_a_9 恋人と一緒にいると、私たちが本当に愛し合っていることを実感できる。	-.005	.096	.092	-.378	.118	<b>.409</b>
lv_b_2 恋人とのセックスで、お互いに十分に満足できることは、大切である。	-.070	.072	.130	.097	.034	<b>.704</b>
lv_b_5 恋人といると、甘く優しい雰囲気になる。	.024	.322	.143	-.063	-.025	<b>.485</b>
lv_d_9 恋人の外見は、私の好みにあっている方がよい。	.239	-.194	-.048	-.033	-.017	<b>.482</b>
lv_e_3 恋人と私は、外見的にうまくつり合っている方が望ましい。	.237	.010	-.092	.070	-.113	<b>.492</b>
lv_f_7 恋人とのセックスでは、お互いに心地よいと感じることが、重要である。	-.131	.074	.052	-.002	.109	<b>.709</b>
<b>[ルダス]</b>						
lv_a_2 特定の交際相手を決めたくない。	-.057	.031	.151	<b>.734</b>	-.075	.042
lv_a_7 私は、多くの異性と「恋愛ゲーム」を楽しみたい。	-.100	.032	.279	<b>.634</b>	-.216	.260
lv_b_10 恋人とは定期的に会うよりも、気が向いたときにだけ会いたい。	.060	-.074	-.197	<b>.538</b>	.137	-.065
lv_d_6 恋人に期待をもたせたり、恋人が自分に夢中にならないように気をつける。	.045	.143	-.181	<b>.441</b>	.213	-.061
lv_e_5 私が必要だと感じたときだけ、恋人にそばにいてほしい。	.204	-.004	.101	<b>.603</b>	.047	-.041
lv_e_8 私は、恋人への関わり方について、少しあいまいにしておこうと気をつける。	.055	.053	.012	<b>.662</b>	.059	-.067
lv_f_5 私は恋人にあれこれと干渉されると、別れたくなる。	.013	-.156	-.232	<b>.465</b>	.212	.142
lv_g_3 だれか異性と交際していても、あまり深入りせず、自由な関係でありたい。	-.038	.050	-.239	<b>.594</b>	.072	.083
lv_g_5 恋人から頼られ過ぎたりベタベタされるのが嫌である。	.091	-.046	-.251	<b>.431</b>	.054	-.113
<b>[主成分間相関]</b>						
	I					
	II	-.106				
	III		.366			
	IV			-.284		
	V				-.096	
	VI					-.071

N = 365

初期固有値 &gt; 1.830; 初期説明率46.15%

Table 1-c 女性ファッション誌接触傾向尺度に関する主成分分析（プロマックス回転〈 $k = 3$ 〉）の結果: 回転後の負荷量

	I	II	III	IV	V
〔カジュアル系〕					
fa_c_6 PS (ピーエス)	.820	-.038	-.036	-.023	.028
fa_b_4 mini (ミニ)	.793	.013	-.050	.068	.031
fa_b_5 SEDA (セダ)	.790	-.014	-.057	.065	.083
fa_b_3 JILLE (ジル)	.759	-.041	-.096	.170	-.106
fa_a_2 CUTiE (キューティ)	.701	.133	.098	-.099	-.248
fa_a_1 Zipper (ジッパー)	.675	.140	.026	-.075	-.143
fa_c_7 spring (スプリング)	.660	-.102	-.067	.200	.157
fa_c_2 mina (ミーナ)	.587	.026	.010	-.188	.358
〔ギャル系〕					
fa_a_8 Cawaii! (カワイイ)	.040	.859	.060	-.034	.079
fa_a_7 egg (エッグ)	.020	.848	-.067	-.071	.011
fa_a_6 Popteen (ポップティーン)	.103	.777	.155	-.142	-.009
fa_c_8 S Cawaii! (エスカワイイ)	-.055	.697	.017	.247	-.051
fa_d_5 JELLY (ジェリー)	-.021	.618	-.140	.200	.031
〔お姉系〕					
fa_d_2 JJ (ジェイジェイ)	-.066	-.007	.827	.134	.030
fa_d_1 CanCam (キャンキャン)	-.143	-.085	.818	-.084	.086
fa_d_8 Ray (レイ)	-.024	-.080	.802	-.167	.163
fa_c_3 PINKY (ピンキー)	.104	.250	.669	.013	-.055
fa_c_9 ViVi (ヴィヴィ)	-.007	.150	.603	.391	-.131
〔海外セレブ系〕					
fa_d_6 GISELe (ジゼル)	.022	-.063	-.119	.818	.131
fa_b_9 GLITTER (グリッター)	-.029	.080	-.059	.814	.078
fa_d_7 GLAMOROUS (グラマラス)	-.040	.246	.011	.766	.088
fa_a_3 sweet (スウィート)	.322	-.203	.277	.602	-.049
〔ライフスタイル系〕					
fa_b_6 MORE (モア)	-.129	.101	-.019	.076	.881
fa_b_7 with (ウィズ)	-.118	.060	.067	.032	.844
fa_a_5 anan (アンアン)	.148	-.101	.206	.095	.513
fa_b_8 steady. (ステディ)	.004	-.047	-.024	.179	.476
fa_a_4 non-no (ノンノ)	.394	.034	.009	-.315	.445
〔主成分間相関〕					
	I	-.121	-.151	.003	.202
	II		.329	.229	-.136
	III			.168	.112
	IV				-.145

$N = 365$

初期固有値 > 1.536; 初期説明率61.06%

の女性をターゲットとし、渋谷109のファッションを中心に、ギャル系女子高校生が読者モデルとして登場している。したがって、この主成分を「ギャル系」とした。

第Ⅲ主成分では、20代女子大学生や若年OL層をターゲットにし、コンサバ・ファッションを中心に構成されている雑誌項目に高い負荷を示している。この第Ⅲ主成分は、「お姉系」と名づけた。

第Ⅳ主成分に高い負荷を示している雑誌を見ると、20代後半から30代くらいまでの女性を対象として、外国人モデルを多用している。海外セレブ女性や海外トップモデルのストリート・スナップも多く掲載されているので、この主成分は「海外セレブ系」と呼ぶことにした。

第Ⅴ主成分では、20代から30代までのOL層を対象とし、ファッション、メイク、恋愛、遊びや、インテリアなど女

性に関連する多様な主題を扱っている雑誌の負荷が高かった。したがって、この主成分は「ライフスタイル系」とした。

### 恋愛観、被服志向性、および女性ファッション誌接触傾向の相互関係

恋愛観、被服志向性、および女性ファッション誌接触傾向の相互関係を探索するために、まず各主成分得点間のピアソン相関値を求めた (Appendix 2-a, b)。その上で、これらの主成分得点を対象として、2次主成分分析と多次元尺度解析を試みた。

#### (1) 2次主成分分析

各主成分得点を対象として、主成分分析（プロマックス回転〈 $k = 3$ 〉）によって2主成分解を算出した。ここでは、抽出2主成分の解釈をするよりも、変数相互の関係を

Table 2-a 恋愛観, 被服志向性, および女性ファッション誌接触傾向の相互関係 — 主成分分析 (プロマックス回転  $k = 3$ ) における負荷量 —

	I	II
マニア	.249	.590
アガベ	.047	-.616
プラグマ	.450	-.513
ストルゲ	-.049	.747
エロス	-.328	.029
ルダス	.405	-.102
流行志向性	.642	.024
保守的志向性	-.332	-.124
実用性	-.467	.202
慎み深さ	-.413	.108
先端性	.596	.095
カジュアル系	-.122	-.130
ギャル系	.654	.083
お姉系	.529	.213
海外セレブ系	.503	.180
ライフスタイル系	-.259	.053
		-.045

N = 365

初期主成分固有値 > 1.737; 初期説明率28.68%

Table 2-b 恋愛観, 被服志向性, および女性ファッション誌接触傾向の相互関係 — 多次元尺度解析 (ALSCAL) における次元負荷量 —

	I	II
マニア	0.111	-1.185
アガベ	-0.006	1.423
プラグマ	1.079	0.947
ストルゲ	-0.555	-1.522
エロス	-1.477	-0.138
ルダス	0.853	0.482
流行志向性	1.348	0.235
保守的志向性	-1.337	0.914
実用性	-1.590	-0.590
慎み深さ	-1.550	-0.424
先端性	1.184	-0.343
カジュアル系	-0.620	1.263
ギャル系	1.362	-0.334
お姉系	1.040	-0.441
海外セレブ系	1.354	-0.741
ライフスタイル系	-1.196	0.454

N = 365

Stress = .237; RSQ = .682

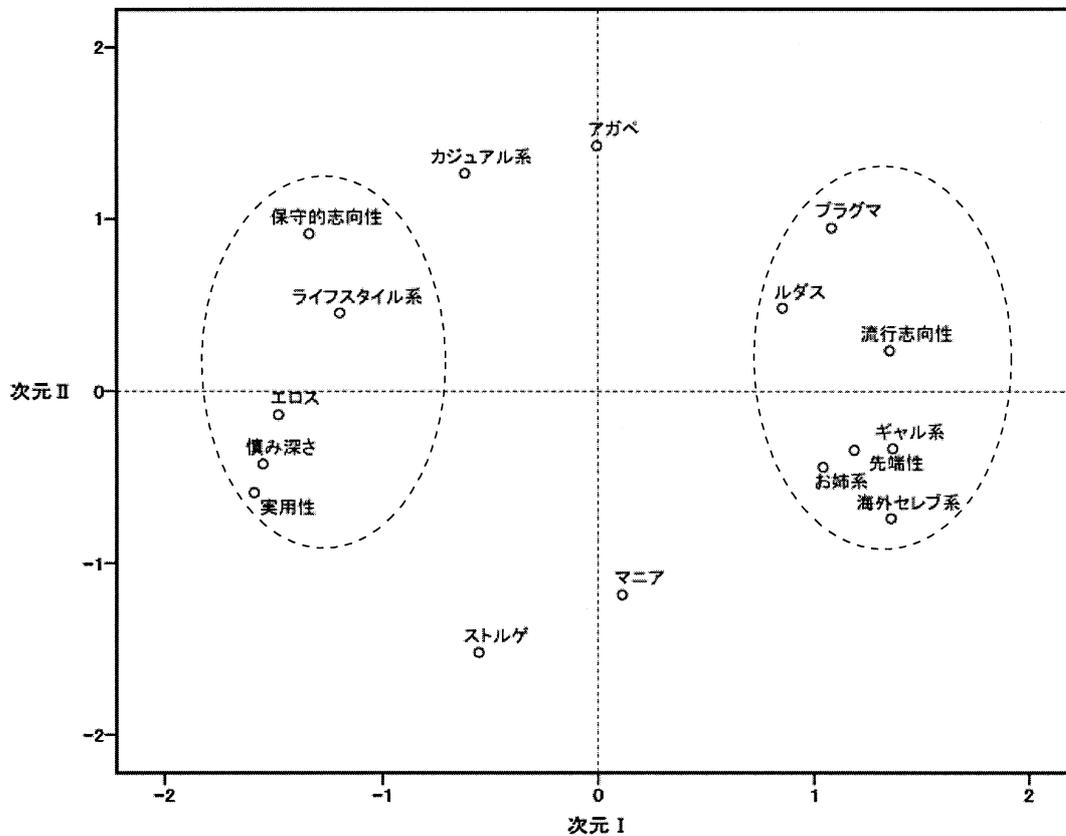


Fig. 1 恋愛観, 被服志向性, および女性ファッション雑誌接触傾向の相互関係 — 多次元尺度解析 (ALSCAL) の結果 —

見た。結果を Table 2-a に示す。

2つのクラスターが検出できた。一つは、「ギャル系」、「お姉系」や、「海外セレブ系」の雑誌嗜好と「流行志向性」および「先端性」の被服志向性に、「ルダス」と「プラグマ」がつながるクラスターである。もう一方は、「ライフスタイル系」や「カジュアル系」と「実用性」、「慎み深さ」、および「保守的志向性」に、「エロス」が絡み合うクラスターを認めることができる。なお、「ストルゲ」、「マニア」、「アガペ」は、2つのクラスターとは離れた位置にある。

## (2) 多次元尺度解析

変数間のユークリッド距離に基づく多次元尺度解析 (ALSCAL) では、2次元までを求め、変数相互の関係を検討した。結果を Table 2-b と Fig. 1 に表す。

第2次元の正負が第Ⅱ主成分と逆になっているが、主成分分析とほぼ類似した2つのクラスターが見い出された。ただし、2つめのクラスターに「カジュアル系」は含まれないと判断された。

## IV. 考察

本研究では、女子大学生が形成するサブカルチャーの様相 (仲川, 2002) を実証的に明らかにするために、女性ファッション雑誌傾向、被服志向性、および恋愛観に焦点を絞った質問紙調査を実施した。

被服志向性と恋愛観については、先行研究で用いた尺度を利用した (諸井ら, 2001; 諸井, 2002, 2004)。被服志向性では、前研究 (諸井ら, 2001) と基本的に同一の主成分が抽出されたが (「流行志向性」、「保守的志向性」、「実用性」、「慎み深さ」)、自ら流行をつくり出す傾向を表す「先端性」主成分も分離して得られた。

さらに、恋愛観では、先行研究では (諸井, 2002, 2004) 抽出されなかった「エロス」が主成分として得られた。先行研究で「エロス」が抽出されない理由として、次の2つが指摘された。①「運命の糸」や「一体性」などの「理想」や「願望」は、特定の恋愛対象が現れたときにまとまりのある概念として収斂するが、一般的態度として触診したときには整合的な固まりとして形成されにくい、②エロス概念を流布するメディアが「ダサイ」ものあるいは「非教養的な」ものとして評価され、そのために回答時に「社会的望ましさ」 (Crowne & Marlowe, 1960) が反応を攪乱する。今回の研究で得られた主な理由として、①対象サンプルの差異と②時代状況の進展を挙げることができよう。①については、先行研究のサンプルは男女共学の国立大学生

が多く含まれ、大学生生活自体の志向性が本研究のサンプルと異なるかもしれない。②については、雑誌メディアなどで唱導される「恋愛歳時記」 (諸橋, 1993) の様相が一般化していると考えられる。

本研究では、恋愛観、被服志向性、および女性ファッション誌接触傾向の相互関係を検討するために、2次主成分分析と多次元尺度解析を行った。個別の相関関係を見るよりも、研究目的から変数群全体の関係を把握するほうが適切と判断したからである。両分析の結果を総合的に考慮すると、2つのクラスターが存在すると推察できた。一つめは、誌面で若年女性の最新の流行を唱導する雑誌系 (「ギャル系」、「お姉系」、「海外セレブ系」)、流行の取り入れに積極的な態度や行動 (「流行志向性」、「先端性」)、恋愛を直接的な目的よりも手段として見なす態度 (「ルダス」、「プラグマ」) から構成されるクラスターである。もう1つのクラスターは、女子大学生よりも若干高い年齢層をイメージさせる雑誌嗜好 (「ライフスタイル系」) や、流行に囚われない態度 (「実用性」、「慎み深さ」、「保守的志向性」) に加え、恋愛経験を理想化する「エロス」から成る。これら2つのクラスターは、恋愛観は含まれていないが、熊谷 (2003) が見い出した CREATIVE 系と CONTEMPORARY 系に対応している。

'70年以降の雑誌内容を分析した Rabine (1994) によれば、女性の「身体」が次の2つに分離=葛藤している様を読み取ることができる。一つめは、「ファッション写真と楽天的なコピーに表現されているような自信に満ち、自由で性的にも積極的なイメージ」であり、雑誌読者は「衣服やメイクを上手に使うてそのようなイメージを自ら再生産する」のである。二つめは、「社会・政治的身体」といえ、「いまだ女性を経済的、政治的、性的、肉体的に従属させるような力関係の網の目に」囚われている。

本研究で抽出された2つのクラスターを Rabine (1994) の指摘に沿って解釈すると、一つめのクラスターは自分の「身体」を思いのままに構成できるという「信念」を核とし、二つめのクラスターには社会に対する力学的関係で「身体」を位置づける志向性が基底にあるといえる。

坂本 (2009) は、女子大学生を対象とした質問紙調査で、偏相関分析を用いて「性役割規範→ファッション意識→女性雑誌の購読」という興味深い因果関係を示唆した。つまり、男と女に関する伝統的考えが「身体」の管理の仕方を規定することになるが、坂本の研究では、被服に対する態度や女性雑誌への接触傾向の測定が単一次的仮定に基づいており、本研究や熊谷 (2003) の研究のように多次元的

に扱われていない。

以上見たように、女子大学生によって形成されているサブカルチャーの基本構造の解明を試みたが、「身体」の自由な創造志向と、いわば「大人」を意識した「身体」志向性が伺えた。しかしながら、本研究の試みは、以下の点で限界をもつ。

'90年代初頭に登場した「コギャル」は、茶髪、ルーズソックス、アレンジした制服を特徴とし(渡辺, 2005)、それまでは外回りを主業務とする社会人の通信機器であった「ポケット・ベル」の対人的利用、すなわち親和化を推進した。彼女らは、当然のことながら、ファッションの側面だけではなく、新たな言語作法も創造した(藤本, 1997)。つまり、サブカルチャーは、本研究で対象としたような側面に加え、言語なども含めた日常生活全体の意識や行動を含めた複合的なものである。本研究では、そのような意識や行動のうち3側面(恋愛観、被服志向性、女性ファッション誌への接触傾向)を触診しただけである。たとえば、性役割観や就業に対する態度などの社会との関わり意識、化粧や整形など「身体」に対する志向性、あるいは交友関係などにおけるメディア(携帯やPCメール)の利用なども射程に入れながら、サブカルチャーの様相を全体手的に捕捉すべきであろう。

また、質問紙法によるデータ採取だけでなく、渡辺(2005)が写真を用いて行ったストリート・ファッションとエリアとの関連分析なども参考にしながら、女子大学生のサブカルチャーの様相に関する実証的研究を多角的に進めるべきである。

#### 〈付記〉

- (1) 本研究で分析対象としたデータは、諸井克英の下で卒業研究のために、尾島智美(同志社女子大学・現代社会学部社会システム学科2007年度卒業)が立案・収集し、花高亜紀(同志社女子大学・生活科学部人間生活学科2008年度卒業)が継続して追加収集した。本研究では、この卒業研究データを再分析した。
- (2) データの統計的解析にあたって、PASW Statistics 18.0 for Windowsを利用した。
- (3) E-Mail: kmoroi@dvc.doshisha.ac.jp

## V. 引用文献

Crowne, D.P., & Marlowe, D. 1960 A new scale of social desirability independent of psychopathology. *Journal of Consulting Psychology*, 24, 349-354.

- 藤本憲一 1997『ポケベル少女革命——メディア・フォークロア序説——』エトレ
- Hebdige, D. 1979 *Subculture: The meaning of style*. Methuen & Co Ltd. 山口淑子訳『サブカルチャー——スタイルの意味するもの——』1986 未来社
- Hendrick, C., & Hendrick, S. 1986 A theory and method of love. *Journal of Personality and Social Psychology*, 50, 392-402.
- 伊奈正人 1999『サブカルチャーの社会学』世界思想社
- 石崎裕子 2004 女性雑誌『VERY』にみる幸福な専業主婦像 国立女性教育会館研究紀要, 8, 61-70.
- 磯井浩紀・早川洋行 2002 女性雑誌にみる身体的魅力, 滋賀大学教育学部紀要, 52, 33-45.
- 熊谷伸子 2003 女子学生の購買行動におけるファッション雑誌の影響 繊維製品消費科学, 44(11), 637-643.
- 厚生省監修 1998『平成10年版厚生白書 少子社会を考える——子どもを産み育てることに「夢」を持てる社会を——』ぎょうせい
- 神山 進 1996 被服心理学の動向 高木 修監修『被服と化粧の社会心理学』北大路書房 2-24頁
- Lee, J.A. 1977 A typology of styles of loving. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 3, 173-182.
- 松井 豊・木賊知美・立澤晴美・大久保宏美・大前晴美・岡村美樹・米田佳美 1990 青年の恋愛に関する測定尺度の構成 立川短大紀要, 23, 13-23.
- 文部科学省 2010 平成22年度学校基本調査の速報について [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa/01/kihon/kekka/k\\_detail/\\_icsFiles/afiedfile/2010/08/05/1296403\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa/01/kihon/kekka/k_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/08/05/1296403_1.pdf)
- 諸橋泰樹 1993『雑誌文化の中の女性学』明石書店
- 諸井克英 2002 若者の対人環境管理に関する社会心理学的研究(3)——恋愛観におよぼす対異性-有能性と対異性-不安の影響—— 同志社女子大学総合文化研究所紀要, 19, 77-92.
- 諸井克英 2004 若者の対人環境管理に関する社会心理学的研究(6)——親との関係経験が恋愛観におよぼす影響—— 同志社女子大学学術研究年報, 55, 129-139.
- 諸井克英・鈴木弥生・染谷知雅・平田幸恵 2001 被服イメージ判断におよぼす被服志向性の影響 人文論集(静岡大学人文学部社会学科・言語文化学科研究報告), 51(2), 1-25.
- 仲川秀樹 2002『サブカルチャー社会学』学陽書房

- Rabine, L. 1994 *Women's two bodies: Fashion, magazines, consumerism and feminism.* In S. Benstock and S. Ferris (Eds.) *On fashion.* Rutgers University Press. pp. 59-75. 成実弘至編『問いかけるファッション — 身体・イメージ・日本 —』所収  
2001 せりか書房 109-129頁
- 坂本佳鶴恵 2009 女性雑誌とジェンダー規範, ファッション意識の関係 — 大学生の読者調査分析 — お茶の水女子大学人文科学研究紀要, 5, 123-134.
- 佐藤(佐久間)りか 2002 「ギャル系」が意味するもの: 〈女子高生〉をめぐるメディア環境と思春期女子のセルフイメージについて 国立女性教育会館研究紀要, 6, 45-57.
- 田中里尚 2008 「おしゃれ」と女性イメージ — 女性雑誌『ミセス』の1960年代をもとに — デザイン学研究, 16(1), 22-31.
- 渡辺明日香 2005『ストリートファッションの時代 — 今, ファッションはストリートから生まれる。 —』明現社

## Appendix 1-a 被服志向性尺度に関する主成分分析における残余項目

- 
- cl\_b\_3 重要な人と会う場合、特に服装に気をつかう。
  - cl\_b\_6 衣服は、自分の個性を表すための重要な方法の1つである。
  - cl\_c\_2 どちらかというと落ち着いた地味な服装が好きである。
  - cl\_c\_7 自分なりの個性をもって衣服を着ている。
  - cl\_d\_3 周囲の人が身につけている服装が気になる。
  - cl\_d\_4 友人が勧めても自分の気に入る服でなければまず買わない。
  - cl\_e\_1 人の服装をみて「やぼったい」と思うことがある。
  - cl\_e\_8 前の年に着ていた服は着ない。
- 

## Appendix 1-b 恋愛観尺度に関する主成分分析における残余項目

- 
- lv\_a\_3 恋愛は、始めるのも終わらせるのも簡単である。
  - lv\_a\_4 異性との友情がいつから恋愛に変わるのか、はっきりとは言えない。
  - lv\_a\_5 恋人以外の異性とつきあうことも大切である。
  - lv\_b\_9 恋人と私は、心の中で結びついていた。
  - lv\_c\_1 私は特定の異性との友情を大切にしたい。
  - lv\_c\_3 恋人と私は、お互いに出会うために、この世に生まれてきたと感ずるだろう。
  - lv\_c\_6 恋人が私に頼りすぎるときには、私は少し身を引きたくなる。
  - lv\_c\_8 恋人同士であれば、お互いに重要な存在だと感ずるはずである。
  - lv\_d\_1 だれか異性を好きになると、私はすぐに感情的にのめり込んでしまう。
  - lv\_d\_7 恋人と私は、お互いに本当に理解しあえるだろう。
  - lv\_e\_1 恋人同士の間で、お互いに知らないことがあった方が多少はよい。
  - lv\_e\_2 異性とつきあうときには、会ってすぐにお互いに惹かれあうかどうか大切である。
  - lv\_e\_6 恋人とケンカをすると、不安や心配でやつれてしまう。
  - lv\_e\_7 恋人との恋愛関係が終わっても、その人とは友人でいたいと思う。
  - lv\_e\_10 恋人が私のもを使っても、全く気にならない。
  - lv\_f\_9 私について恋人が知らない部分がある方が、恋人のためになることもある。
  - lv\_g\_2 恋人が別の人とつきあっているかもしれないと思うと、居ても立ってもいられない。
  - lv\_g\_8 恋人との愛を大切にしようと気を使う。
- 

## Appendix 1-c 女性ファッション誌接触傾向尺度に関する主成分分析における残余項目

- 
- fa\_a\_9 SAY (セイ)
  - fa\_b\_1 MISS (ミス)
  - fa\_b\_2 CLASSY (クラッシー)
  - fa\_b\_10 STYLE (スタイル)
  - fa\_b\_11 BOAO (ボアオ)
  - fa\_c\_1 KERA (ケラ)
  - fa\_c\_4 Oggi (オッジ)
  - fa\_c\_5 LUCi (ルーシィ)
  - fa\_d\_3 BLENDa (ブレンダ)
  - fa\_d\_4 Ranzuki (ランズキ)
-

## Appendix 2-a 女性ファッション誌接触傾向および被服志向性と恋愛観との関係 — ピアソン相関 —

	マニア	アガベ	ブラグマ	ストルゲ	エロス	ルダス
[女性ファッション誌接触傾向]						
カジュアル系	-.108 <i>p</i> = .040	.066	-.106 <i>p</i> = .044	-.011	.048	-.077
ギャル系	.113 <i>p</i> = .030	.056	.269 <i>p</i> = .001	.055	-.134 <i>p</i> = .011	.135 <i>p</i> = .010
お姉系	.188 <i>p</i> = .001	-.076	.098 <i>p</i> = .061	-.006	-.199 <i>p</i> = .001	.257 <i>p</i> = .001
海外セレブ系	.106 <i>p</i> = .044	-.065	.055	-.019	-.265 <i>p</i> = .001	.065
ライフスタイル系	-.018	.027	-.177 <i>p</i> = .001	.035	.012	.006
[被服志向性]						
流行志向性	.164 <i>p</i> = .002	.080	.163 <i>p</i> = .002	-.051	-.090 <i>p</i> = .086	.284 <i>p</i> = .001
保守的志向性	-.021	.032	-.068	-.048	-.028	.084
実用性	.072	.026	-.145 <i>p</i> = .006	.140 <i>p</i> = .008	.197 <i>p</i> = .001	-.067
慎み深さ	.106 <i>p</i> = .043	.003	-.036	.084	.155 <i>p</i> = .003	-.085
先端性	.206 <i>p</i> = .001	.066	.316 <i>p</i> = .001	.118	-.023	.165 <i>p</i> = .002

N = 365

## Appendix 2-b 女性ファッション誌接触傾向と被服志向性との関係 — ピアソン相関 —

	流行志向性	保守的志向性	実用性	慎み深さ	先端性
カジュアル系	.145 <i>p</i> = .005	.000	-.066	-.001	-.018
ギャル系	.224 <i>p</i> = .001	-.184 <i>p</i> = .001	-.219 <i>p</i> = .001	-.217 <i>p</i> = .001	.363 <i>p</i> = .001
お姉系	.365 <i>p</i> = .001	.058	-.078	-.178 <i>p</i> = .001	.145 <i>p</i> = .006
海外セレブ系	.265 <i>p</i> = .001	-.317 <i>p</i> = .001	-.123 <i>p</i> = .019	-.140 <i>p</i> = .008	.140 <i>p</i> = .007
ライフスタイル系	-.002	.214 <i>p</i> = .001	.198 <i>p</i> = .001	.028	-.159 <i>p</i> = .002

N = 365